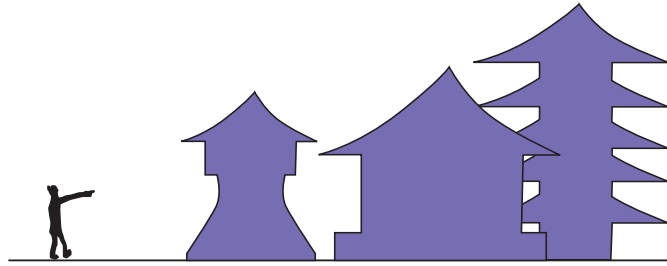


10. 発散させる



江戸では、二股に割れる形態の樹木や多焦点的に高い建物が建つ寺院伽藍などが多い。このような破調の形態は、垂直物を発散させていると見る事ができる。

また、盛り場などで多く見る事ができるのぼりの揚げり方も統一されたものではなく、様々な方向に放射している。このような形態と関係がある概念が「天・地・人」もしくは「真・副・体」と言われる物であろう。

日本の生け花や盆栽などは一直線に立ち上がるような形をあまり見る事が無い。斜めに上昇したり、途中で折れ曲がったりする。これは、「天・地・人」や「真・副・体」という概念が示すように、一つの形態に3つの動きを相互依存させながら内包するような形態を好むからである。当然、このような考え方はシンメトリーな形態を作りにくく、結果的に垂直性を発散させると言えるであろう。

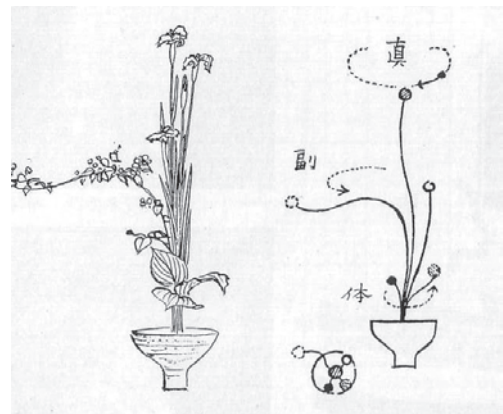


fig-4-2-25 真副体
『日本の都市空間』より



fig-4-2-26 発散的形態の樹木
『富嶽三十六景』葛飾北斎 『世界名画全集別巻3』より



伽藍配置
配置



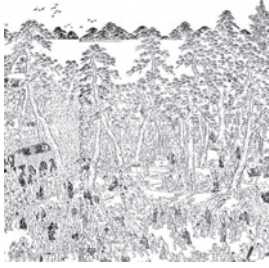
伽藍内の石塔や樹木の
配置 1



伽藍内の石塔や樹木の
配置 2



のぼり



樹木



樹木の幹



1 1. 相似形をつくる



神棚や盆栽、箱庭など日本人がミニチュア指向である事は多くの人が語る事である。そのような物だけでなく、『江戸名所図会』で確認できるように、本来の大きさを大きくした模造品も存在した。これらを総じて「相似形をつくる」作法とした。

富士講の富士詣の代替行為として富士塚という疑似富士を江戸に作り上げてそれを詣でた事とする行為もある。fig-4-2-29の富士塚は「新富士」と呼ばれ、12m程度の山であった。三田の台地に築かれたため見晴らしは絶景であったようだ。

同様の形をした石塔、地蔵が様々なスケールで同じ場所に並べられる事も『江戸名所図会』で確認ができる。このように同時に相似形が存在する風景というものは、あまり高さというものの自体を感じない傾向があるのではないか。



fig-4-2-27 屋根の破風と富士山の相似
『富嶽三十六景』葛飾北斎 『世界名画全集別巻3』より



fig-4-2-28 「護国寺境内 西国札所の絵三十三観音の図」
『江戸名所図会』より

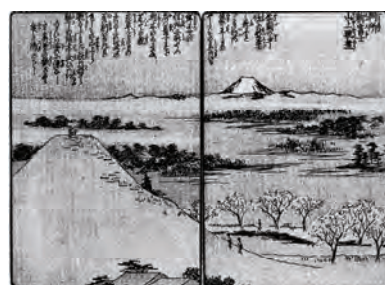
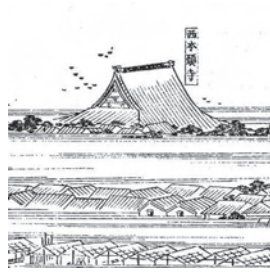


fig-4-2-29 「目黒新富士」
『絵本江戸土産』広重
『大江戸ものしり図鑑』より



大小の墓



富士と屋根



大小の地藏

相似形を同時に見せる



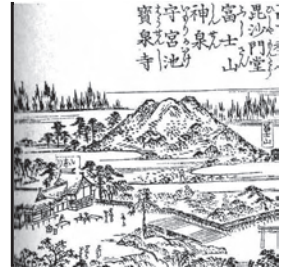
茶弁当



盆栽



富士塚 1

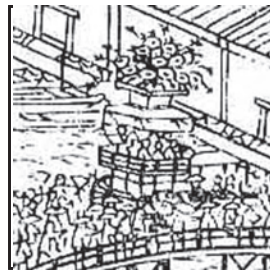


富士塚 2

収縮した模造品



象



花

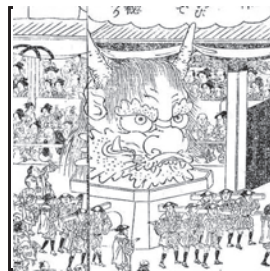


鳥

等倍の模造品



斧



鬼の顔



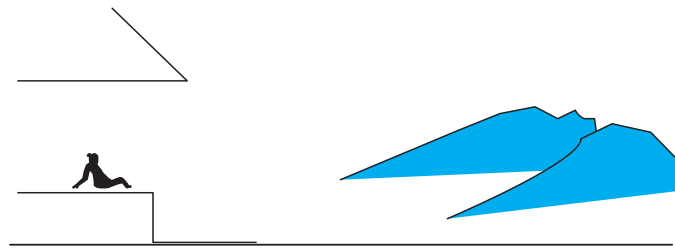
旗



しゃもじ

大きくした模造品

1 2. 眺める場所をつくる



江戸の町人は潮見坂とか富士見坂といった名前が今でも多く残るように、大いに眺望を楽しむ事を好んだ。坂の頂上は普段抑圧された視線を解放してくれる場所でもあったのだ。

また、良い景観を獲得できる場所には清水の舞台を作ったり二階に縁を張り出した。上野の寛永寺にも今は無き清水が存在した。

『江戸名所図会』で確認できる「眺める場所」が水辺か地形の縁(崖のような場所、坂道の頂上)であった。上野の例はあるものの、一般的にはこのように景観の対象はほとんど自然物であった。

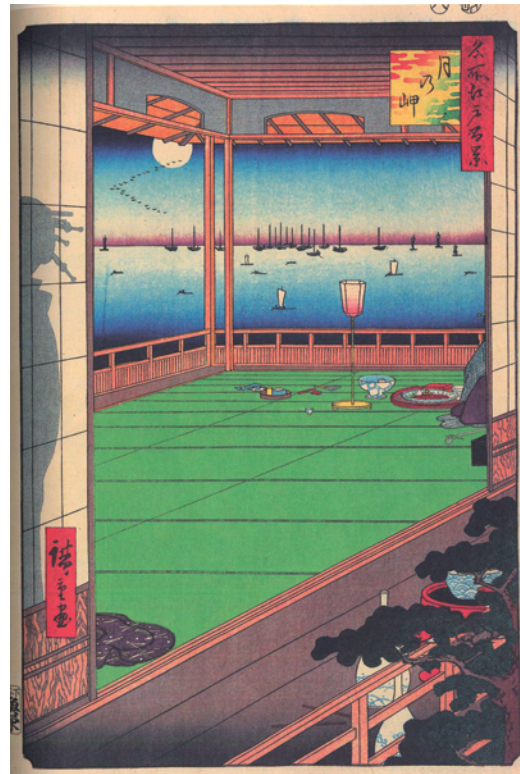
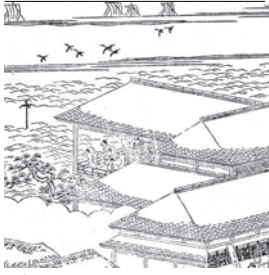


fig-4-1-2-30 「月の岬」
『名所江戸百景』 広重 より



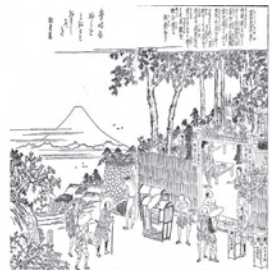
水辺



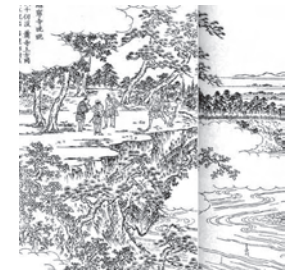
清水



坂上



地形の縁



眺める場所



火除けの設備

5. 結

結論

1. 垂直性には上下の運動の要素が存在し、その運動方向はその文化の死生観の表象である。
2. 江戸の町は垂直要素が非常に少なく、高い建物においてもその高さを強調するように建てられている建物は少なかった事が予想される。
3. キリスト教に代表されるような上昇指向の垂直性に対して、江戸の垂直性は下降指向性が強い傾向にあった。
4. 江戸の下降指向性の垂直性の表現は豊かなものであった。

*

江戸は高さに消極的な町であった。棟の高さが揃っている住宅はみな低い様相を示しており、実用的な火の見櫓が点々と建ち並び、町のシンボルとしての天守閣も存在しなかった。しかしそれは垂直性の発想が貧相なわけでは無く、上昇的な運動性を持った垂直性を発想をする文化的土壌が存在しなかったからである。その垂直性の運動的側面を、本論ではその地域の社会の根底に存在する人の死生観に求めた。

キリスト教が代表するように魂が上昇する（脱魂）社会において神と人の距離は無限なものであった。都市空間は教会のような上昇指向の高さを持った中心が存在し、そのような中心から階層が連続的に秩序だつて構成される。それに対して、江戸は「奥」に秘められた神聖な空間があるように、平面的に階層表現がなされたため、西洋の都市のように、視覚に訴えるような物ではなかった。しかし江戸の垂直性の表現は4章に示す通り、多様で豊かな物であったといえる。ここで取りあげた多くの例が示すように、日本の高さは身体に対して親密であり、高い場所にあるものでも空よりむしろ地面に接続されている印象を受ける。例えば凧や神棚、樹木の形態といったものが好例であろう。それは神が身近な場所まで降りてくる憑依的な性質がよく表れている、有限な高さを持っていると言えよう。

*

「象徴化はすべて慣習 (conventions) を前提とする。*」とオーギュスタン・ベルクは述べた。垂直性は建物のモニュメンタルな側面に多くの関心を注がれてきたが、実はそのような性質は地域、文化によってその表象が大きく異なる。グローバリゼーションがそのようなモニュメンタリティーの地域性を一元化する流れにあっても、垂直性の本質のなかに人間の死生観が組み込まれている限り文化的差異は表出され続けるであろう。そもそも高さとは鑑賞する客体の信仰的な性質とリンクしないとその象徴性を高める機能を果たさないのである。

終わりに

かつて旧ソビエト連邦時代のモスクワで行われたソビエトパレスのコンペにおいて、当時世界的巨匠であったル・コルビジエの水平と円弧を構成的に配した近代建築として秀逸な提案ではなく、ボリス・イオファンの巨大な塔状の建築が採用された。これらの案の建築的な優劣もさることながら、それよりもなにより両者の強力なコントラストに衝撃を受けた。建築における水平性と垂直性の対立および調和は永遠のテーマであると確信した。

今後、このような興味を実際にどのように建築として表現していくのが私自身の課題であろう。垂直性はその文化の根底を表象する性質を色濃く持っているという事を意識して、注意深く文化的コンテキストと建築表現を結びつける事が必要である。

これを持って結びとする。

*オーギュスタン・ベルク 宮原伸訳 : 空間の日本文化, ちくま学芸文庫, 2007

参考文献一覧

- 朝倉治彦 / 鈴木 棠三 - 校註 : 江戸名所図会 上巻・中巻・下巻, 角川書店出版, 1980
- ミルチャ・エリアーデ 風間敏夫訳 : 聖と俗, 法政大学出版, 1969
- 佐原六郎 : 世界の古塔, 雪華社, 1985
- 都市デザイン研究体 : 日本の都市空間, 彰国社, 1968
- 梶谷善久 : 聖と俗 塔と広場の思想, 玉川大学出版部, 1979
- 鈴木正崇 : 山と神と人-山岳信仰と修験道の世界, 淡交社, 1991
- 岩科小一郎 : 富士講の歴史, 名著出版, 1983
- 平野榮次 : 富士信仰と富士講, 岩田書院, 2004
- 宮家 準 : 民俗宗教における柱の信仰と儀式
- フランソワ・マセ : 日本における、森と聖域, 『文化の多様性と通底の価値』, 麗澤大学出版会, 2007
- 黒住 真 : 複数性の日本思想, ペリかん社, 2006
- マグダ・レヴィッツ・アレクサンダー 池井望訳 : 塔の思想, 河合書房新書, 1992
- 梅原猛 : 塔, 集英社文庫, 1985
- 多田道太郎 : 遊びと日本人, 筑摩書房, 1994
- 多田道太郎 : 日本人の美意識, 筑摩書房, 1978
- 櫻井徳太郎 : 民間信仰と山岳信仰, 『山岳宗教と民間信仰の研究』名著出版, 1976
- 楨文彦 他 : 見えがくれする都市, 鹿島出版会, 1980
- ミルチャ・エリアーデ 堀一郎訳 : シャーマニズム, 冬樹社, 1985
- 横浜開港資料館 (編集) : F. ベアト写真集 (1) 幕末日本の風景と人びと, 明石書店, 2006
- エメエ アンペール 高橋邦太郎訳 : アンペール幕末日本図絵
- 木下直之 : 屋根の上のつくりもの, 『講座日本美術史5』 東京大学出版, 2005
- エドワード・モース : 日本のすまい・内と外, 鹿島出版会, 1979
- 水野耕至嗣 : 江戸の都市構造におよぼした法的規制
- 水野耕至嗣 : 法制史から見た近世都市
- 陣内秀信 : 東京の空間人類学, 筑摩書房, 1985
- 大野秀敏 : 視線の場としての都市
- 楨文彦 : <ひとば>と<にわ>, 『記憶の形象 都市と建築の間で』, 筑摩書房, 1992
- 大野秀敏 : 周縁に力がある
- 内藤昌 : 江戸と江戸城, 鹿島研究所出版会, 1966
- 高橋康夫他編 : 図集 日本都市史, 東京大学出版会, 1999
- 伊藤毅 : 都市の空間史, 吉川弘文館, 2003
- 歴史群像 名城シリーズ 江戸城, 学習研究社, 1995
- 千葉正樹 : 江戸城が消えていく 『江戸名所図会』の到達点, 吉川弘文館, 2007
- ロラン・バルト 宗左近訳 : 表徴の帝国, 新潮社, 1974
- 鈴木章生 : 江戸名所と都市文化, 吉川弘文館, 2001
- 山本純美 : 江戸の火事と火消し, 河出書房, 1993

山岸常人 : 塔と仏塔の旅, 朝日新聞社, 2005
井上充夫 : 日本建築の空間, 鹿島出版会, 2000

浅野 秀剛 / 藤澤 紫 : 広重 名所江戸百景 / 秘蔵 岩崎コレクション, 2007
加藤 秀俊 他 編 : 大江戸万華鏡, 農山漁村文化協会, 1991
佐藤 要人 : 図説 浮世絵に見る江戸の歳時記, 河出書房, 1997
東京都写真美術館 編 : 幕末・明治の東京 - 横山松三郎を中心に -, 1991
江戸東京博物館編 : 大江戸八百八町展, 2003
観世栄夫, 林義勝 写真 : 幽観世栄夫の世界, 小沢書店, 1997
小林忠 監修 : 浮世絵の歴史, 美術出版社, 1998
花咲一男 監修 : 大江戸ものしり図鑑, 主婦と生活社, 2001
福島県立博物館 編 : 武者たちが通る-行列絵図の世界-, 2001
消防防災博物館 : 鳶頭政五郎覚書 <http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi>
下中邦彦 : 世界名画全集別巻3 北斎富嶽三十六景, 平凡社, 1960
池井望 : 盆栽の社会学 - 日本文化の構造 -, 世界思想社, 1993

オーギュスタン・ベルク 宮原伸訳 : 空間の日本文化, ちくま学芸文庫, 2007

ウィキペディア, <http://ja.wikipedia.org/>

謝辞

本論の執筆にあたっては、非常に多くの人に御援助をいただいた。特に大野秀敏先生には、常に鋭い洞察による丁寧なご指導を賜ったことを、深く感謝している。三年間の研究室の在籍で他では得難い貴重な体験をさせていただいた事も同時に感謝の意を表したい。辻誠一郎先生には歴史研究について右も左も分からない筆者に対し、親切に尽くして下さった。技官の山崎由美子さんには素晴らしい研究環境を整えていただいた。友人の本間健太郎、市川智英子、堀瑞樹、飯田智彦は常に弱気な筆者を助け、絶えず励ましてくれた。同期の梅岡恒治、Laura Martures、久保秀朗、市村駿とは最も身近な存在として共に切磋琢磨した。他にも多くの方々の助けによってこの論を書き上げる事が出来た。ここで御礼申し上げる。最後に、両親にはこのような素晴らしい学問の機会を作っていただき、また精神的経済的援助を惜しまないでいただいた。大変感謝しております。

2008年1月 千種成顕

付録編

本編では、3.2.における名所に関する統計(A)、3.3.1.における遠景に関する統計(B)および、3.4.1.2.における宗教施設の中心的建物に関する統計(C)を掲載する。

なお、これらは全て江戸名所図会の図版を対象とした統計である。用いた江戸名所図会の図版は『角川書店出版新版 江戸名所図会 上巻・中巻・下巻 : 朝倉治彦 / 鈴木 棠三 - 校註 初版』に掲載されていたものであり、表内の「巻」と「掲載ページ」はこれに対応している。

NO.	掲載ページ	河津、土手、瀬、海辺、塩浜	店、商業	市	地蔵、大仏	樹木	門、橋、戸	墓、塚、石塔	眺望	林泉、庭	山	通り、道	駅	橋	林、森	泉、井戸	池	茶屋、茶館	坂	谷	丘	川	石、岩	庭、馬場、白洲、本場	祭り	芝居小屋、土弓	多層塔、	宗教施設	その他(塙所、塙面、塙所以外)
613	634	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
614	636	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
615	644	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
616	648	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
617	658	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
618	666	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
619	668	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
620	674	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
621	682	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
622	686	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
623	688	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
624	690	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
625	692	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
626	694	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
627	697	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
628	699	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
629	700	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
630	704	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
631	706	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
632	708	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
633	713	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
634	714	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
635	716	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
636	718	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
637	722	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
638	726	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
639	728	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
640	730	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
641	732	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
642	736	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
643	744	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
644	748	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
645	750	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
646	754	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
647	757	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
648	760	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
649	767	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
650	772	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
651	776	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
652	790	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
652	790	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
653	792	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
654	799	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
655	801	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
656	803	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
657	808	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
658	816	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
27	30	5	2	19	6	25	21	10	15	9	2	31	4	14	18	7	15	2	1	29	3	15	20	3	1	414	166		

No	階	遠景の対象	遠景の種類											評価したもの-1	立体伽藍-1	本社-地盤-1	本社-高い-1 判別不能-A	本社-高い-1 判別不能-A	拝殿>本社-0 拝殿=本社-A		
			山	樹木	高さが 同様な 屋根群	高さが 突出し た屋根	見世物 小屋	江戸城	網	五重塔	木材	旗	寺の櫓								のぼり
178	上	614	1		1	1									1	0		1	0		
178	上	614	1		1	1									1	0		0	0		0
179	上	616													1	1	1	1	0		
180	上	620													1	1	0	1	1		
181	上	622	1	1	1										0						
182	上	626	1	1	1																
183	上	628																			
184	上	632																			
185	上	635	1	1	1	1	1														
186	上	642	1	1	1																
187	上	647																			
188	上	648																			
189	上	658	1	1	1																
190	上	664	1		1																
191	上巻	668	1	1																	
192	上	674																			
193	上	680													1	1	1	A	0		A
194	上	683	1		1									0							
195	上	684	1		1									0							
196	上	688												1	1	0	0	0			
197	上	698	1		1									1	1	0	1	0			
198	上	700																			
199	上	702																			
200	上	706																			
201	中	20												1	1	1	1	1			1
202	中	26												1	0		0	0			0
203	中	30												1	0		1	1			
204	中	33																			
205	中巻	35																			
206	中	36																			
207	中	38	1		1																
208	中	41																			
209	中	42	1		1									0							
210	中	46												1	1	0	1	1			
211	中	50												0							
212	中	54																			
213	中	56												1	1	1	0	0			
214	中	58												1	0		1	0			
215	中	62	1		1									1	0		0	0			
216	中	64	1		1									0							
217	中	66	1		1																
218	中	70	1		1																
219	中	72												1	0		A	0			A
219	中	72												1	1	0	1	0			1
220	中	76																			
221	中	78	1		1									1	1	1	1	1			
222	中	82												1	1	0	0	0			0
223	中	84												1	0		1	1			
223	中	84												1	0		1	0			
224	中	86	1		1									1	0		1	1			
225	中	88												1	1	0	1	1			
226	中	90	1	1	1	1								1	1	1	A	0			A
227	中	94												1	1	1	1	0			
228	中	98												1	1	0	0	0			
229	中	100	1	1	1									0							
230	中	102	1	1	1																
231	中	104	1	1										0							
232	中	106																			
233	中	110												0							
234	中	112	1		1									1	0		1	1			
235	中	116												1	0		1	0			
236	中	118																			
237	中巻	120	1	1	1									1	1	1	1	1			
238	中	124	1	1	1									0							
239	中	126	1	1	1									1	0		0	0			0
240	中	128	1	1	1																
241	中	132	1	1	1									1	1	0	1	1			
242	中	136												1	0		1	1			
243	中	142	1		1	1	1							1	1	1	1	1			
244	中	144												1	1	0	1	1			
245	中	152	1		1									1	1	0	A	0			
246	中	157																			
247	中	158												1	1	1	A	A			A
248	中	162												1	1	1	1	1			
249	中	166	1	1	1									1	0		1	1			
250	中	172	1		1									1	0		1	0			
251	中	174	1		1	1								1	0		1	1			
252	中	176												1	0		1	0			1
253	中	180	1		1									1	0		1	1			
254	中	182																			
255	中	186	1	1	1									1	1	1	0	0			
256	中	188	1		1									1	1	1	A	0			A
257	中	192	1	1	1									1	1	1	1	0			1
258	中	197												1	0		1	0			
259	中	200																			
260	中	202	1	1	1		1														
261	中	208	1	1	1																
262	中	212												1	0		1	0			1
262	中	212												1	0		1	0			1
263	中	215	1	1	1	1								1	1	1	1	0			
264	中	216																			
265	中	222	1	1	1																

富士

2007年度

修士論文

江戸の都市空間における垂直性の表象

千種成顕

江戸の都市空間における垂直性の表象

Representation of Verticality in Urban Space of Edo

学籍番号 56833

氏名 千種 成顕 (Chigusa, Nariaki)

指導教員 大野 秀敏 教授

0. 序

本論は、江戸の都市空間において垂直性がどのような意味とかたちを持ったのか検討する事を目的とした研究である。

当時の江戸の都市図を見ると均質な瓦屋根が続く水平的な風景を見る事ができる。本論はこのような垂直要素の欠落した都市風景に注目した。垂直要素の欠落も一つの垂直性の現れとして、江戸の都市空間を構成する成分である垂直性全般を対象に表象研究を行った。

本論の構成は、まず表象研究という性格上、垂直性の象徴性自体の性質を明らかにし (1)、江戸に高さを象徴的に見せるような垂直要素が存在したかを既往研究 (2) 及び『江戸名所図会』における江戸の都市空間において検討し (3)、その他の垂直性の形象を作法という形でまとめた (4)。

1. 垂直性に関する象徴性

1.1. 世界の軸

宗教学者のミルチャ・エリアーデは「世界の軸」という概念を、天との交流を目的とした外的世界 (カオス) に対する内的世界 (コスモス) の起点として位置づけ、柱 (宇宙の柱)、梯子、山、樹、蔓等、様々の形象によって表現されると説明した。日本における「世界の軸」としては山岳信仰や柱信仰を挙げる事が出来るであろう。いずれも原始的な宗教

形態が発達したもので、信仰対象を神とする、信仰対象に神が住み着く、信仰対象に神が降りてくるという三形態を持っている。このように仮に対象物の垂直要素が際立っている時、その垂直性は天との交流を感じさせる性質を表象する事がある。

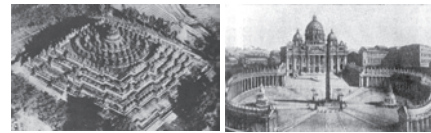


図1 ボルブドゥール、パチカン、オベリスク

1.2. 脱魂型と憑依型

そのようなモニュメントとして際立った例が塔と呼ばれる建物である。塔の高さが作る象徴性には上昇性、下降性といった運動的側面が存在する。マグダ・レヴィッツ・アレクサンダーは『塔の思想』の中で、西洋の塔は人間の高所衝動 (自己をより高みに達せようとする無限の衝動) によって永遠の上昇指向性を内に秘めていると主張した。それに対して梅原猛は塔の先端である相輪が塔の下に埋められた舍利に対する標識的役割をしている事に注目し、仏教の完成された死生観を表象する仏塔の下降性を西洋の塔と対比してみせ、塔を「生と死の相克の表現」と位置づけている。

このような対比は脱魂型と憑依型シャーマニズムによって説明が出来よう。宗教人類学の佐々木宏幹はこれらを以下のように説明する。「脱魂型シャーマンは上昇的であり、自

己（靈魂）を超自然的領域に向けて拡大させようとするのに対し、憑依型のシャーマンは下降的であり、自己に向けて超自然的領域を集中させようとする。前者は遠心的であり、後者は求心的である。」

アレクサンダーの言及する人の高所衝動はまさに脱魂的行動様式であり、対して仏塔の根元に舍利を埋める行為は憑依的行動様式と言えるであろう。

梅原と同様、多田道太郎も象徴性の下降的性質に興味を持った一人である。多田は日本の

の凧は天空を舞うものではなく、地を這うものではないかと考えた。実際、江戸



図2 角凧、マレーシアの凧

で隆盛した武者絵の描かれた角凧とアジアで多くみられる鳥などの具象的な凧を比較すると、江戸のものは明らかに鳥が表す上昇しようとする意思が感じられない。他にも多田は日本の天空指向性の欠落に関して指摘して、日本を憑依型の強い社会と位置づけた。

また、櫻井徳太郎は日本の山中他界の概念を、靈魂が上昇する垂直的「異郷的他界観」と死霊が付近の霊山に留まる水平的「死後他界観」に分類している。このような死後他界観の表れである山の麓に建てられる神社と村

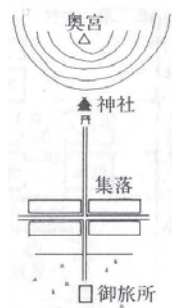


図3 村の構成

脱魂型シャーマニズム	憑依型シャーマニズム
上昇性	下降性
垂直性	水平性
遠心的	求心的
発散的	集中的
無限性を前提とする	有限性を前提とする
具象形態の凧	矩形の凧
異郷的他界観	死後他界観
山頂	山の麓、中腹
教会の塔	仏塔
『塔の思想』	『奥の思想』

図4 垂直性の運動ベクトルの特徴

落コミュニティの水平的関係性から日本独特の空間概念として奥の思想を唱えたのが槇文彦である。槇は「『奥』は水平性を強調し、見えざる深さにその象徴性を求める」と述べた。これは塔の視覚的に訴えかける象徴性と対立する垂直性（もしくは垂直性の無さ）の象徴性であろう。このような象徴性は江戸に少なからぬ影響を与えた。

2. 江戸の都市景観

愛宕山から幕末の江戸を眺めた者の多くが江戸の鳥瞰風景を海や田んぼと言った平たいもので形容した。そのような都市空間は厳しい階数規制、高さ規制が作り上げたのだが、だからこそ逆にシンボリックな高さを幕府や宗教組織が作ることが容易であったとも言える。しかし、実際の都市計画や武家屋敷、江戸城を見ていくと、控えめな高さの主張しか感じない。特に江戸城の天守閣は当初明らかに見られる事を強く意識したデザインであったにもかかわらず、そのようなモニュメントが明暦の大火後再建されなかったことは本論にとって非常に興味深い。以上より天守閣無き江戸に際立った垂直要素はなかった事を予想する事ができる。



図5 江戸城、大阪城、安土城天守再現図

3. 江戸名所図会を利用した垂直要素の分析

3.1. 江戸名所図会

『江戸名所図会』（以下、図会と呼ぶ）は名所項目数千四十四にも及ぶ江戸時代の名所案内の決定版であり、その取り扱い範囲も江戸を超えて武蔵、相模、下総を含む非常に広い

ものとなっている。本論において 当資料を対象に分析を行う理由を、1 描写の写実性が他の資料と比べて高い 2 写実的な俯瞰描写が極めて多い 3 大衆の日常を中心に描かれているとした。

3.2. 名所の類型と分析

まず690枚の図版に記載されている表題を使って名所の類型化と統計を行い(表1)、名所化された垂直要素の存在を確認した。そのほとんどが宗教施設で、次点が水に関する名所であった。また、火の見櫓や江戸城を名所として扱われた物は存在しなかった。

3.3. スカイラインの分析

図版に描かれている遠景を366景採取し、その中に描かれているスカイラインを作り上げている要素を類型化し統計を行い(表2)、実際に垂直要素として見えたであろう要素を明らかにする。山並みや樹木や棟の高さの揃った住宅群など平たい風景を突き抜けてスカイラインを構成する物の多くは大屋根であり、次点が火の見櫓であった。

3.4. 象徴性に関する分析

3.2、3.3よりその象徴性を分析する対象を宗教施設、火の見櫓、仏塔、それ以外の方形屋根をもった建築(以下、方形建築と呼ぶ)とした。それらの分析を通して「高さ」(宗教施設、火の見櫓、仏塔)や「四面对象の形態」(火の見櫓、仏塔、方形建築)がその建築の象徴性を高める事と関連性があるか検討した。

多くの宗教施設の中心的建物は、比較的他の周りの建物より高く建てようとする傾向が見られるが、多くは樹木を超える程高く建てられなかった(表3)。また、火の見櫓、仏塔、それ以外の方形屋根を持った建築についてもその象徴性の見せ方について統計を用いて(表4、5、6)分析を行ったところ、どの分析

表1 名所とされるもの

宗教施設	415
橋	31
店、名産、工場	29
川	29
河岸、土手、浜、海辺、塩浜	27
墓、塚	23
眺望	21
祭り	20
樹木	19
池	18
山	15
坂	15
原、馬場、旧跡、木場	15
泉、井戸	14
林泉、庭	10
通り、道	9
茶屋、茶販	7
門、戸	6
市	5
林、森	4
石、岩	3
芝居小屋、土弓	3
地蔵、大仏	2
駅	2
谷	2
塔	1
丘	1
その他(場所、行事、名所以外)	166

表2 遠景

樹木	347
山	167
高さが同様な屋根群	137
高さが突出した大屋根	29
火の見櫓、はしご	8
五重塔	3
材木屋の木材	2
江戸城	1
網	1
旗	1
寺の旗を掲げる棒	1
のぼり	1
見世物小屋の屋根	1

表3 宗教施設の中心的建物

A		344
対象数	(100%)	237
中心的建物<一番高い建物	(69%)	96
中心的建物<一番高いもの	(28%)	
B		344
対象数	(100%)	150
立体的形態	(44%)	59
中心的建物<一番上に建っている	(17%)	
形態		
C		78
前面に採光のある中心的建物の数	(20%)	
中心的建物>採光	(24%)	21
中心的建物<採光	(27%)	33
中心的建物<採光	(42%)	

表4 火の見櫓

	高さ	通りに面している
f13-5-2-1-2	○	○
f13-5-2-1-3	○	○
f13-5-2-1-4	○	×
f13-5-2-1-5	○	×
f13-5-2-1-6	○	×
f13-5-2-1-7	○	×

表5 仏塔

	形態の屋根	高さ	軸線
f13-5-2-2-2	大	○	○
f13-5-2-2-3	小	×	○
f13-5-2-2-4	小	○	×
f13-5-2-2-5	大	×	×
f13-5-2-2-6	大	○	×
f13-5-2-2-7	大	○	×
f13-5-2-2-8	大	○	○

表6 方形屋根をもった建築

軸線上に建てられている、かつ	2	3
同一平面で一番高い建物である	(22.3%)	
軸線上に建てられていない、かつ	8	
同一平面で一番高い建物である	(7.8%)	
軸線上に建てられている、かつ	1	1
同一平面で一番高い建物でない	(10.7%)	
軸線上に建てられていない、かつ	6	1
同一平面で一番高い建物でない	(59.2%)	

においてもその形態が映えるような周辺関係を持っているものと、そうでないものに対して、両者は特別な偏りが確認されなかった。

以上の分析から、図会に描かれている江戸の都市空間では、ある固有のビルディングタイプがモニュメンタルな象徴性を高さを用いて獲得するという事は無かった。むしろ周辺環境などの初期条件に対応して固有の象徴性を作り出していた事が予想できる。

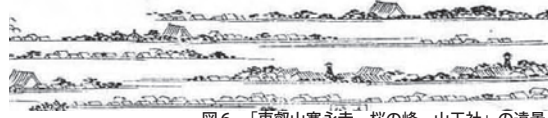


図6 「東叡山寛永寺 桜の峰 山王社」の遠景

4. 江戸の垂直性の表象

本章では、江戸において垂直性に関する形や場の作られ方を「垂直性の形象に関する作法」として13項目にまとめた。これらの多くは視線に対して水平的、下降的、もしくは視線の運動を抑制する性質を持ったものであった。

01. かけける

江戸の人はよく仮設的なものを上方に掲げる。それは、縁起物や身分を表す標識などがある。

02. はためかす

広重の『名所江戸百景』に多く取りあげられているように、七夕飾りや鯉のぼり、旗、のぼりなど、ひらひらとはためくものを多くみる事が出来る。

03. 水平性を強調する

多くの建物は高欄や軒などが水平性を強調したり単純に平面的な床が積まれる構成をしている。坂道にある屋敷の塀に関してそれは水平を連続した形態である。

04. 三角形を好む

富士山や大屋根から物の積み方に至るまで、江戸では多くの三角形をみる事が出来る。また能の舞台に描かれる松の木は三角を連ねて構成される。

05. 屋根をかける

地蔵や高札、社など格の高い物や神聖な物には屋根がかけられる。

06. 目上にあげる

身分を相対的な高さの差で表す。

07. 秘める

神の社や本社は樹木で覆われたり石塔で囲まれたり岩壁に穴をくりぬいて埋められたりする。それは樹木が縦にのびたものより横に広がった物が好まれた事とも関係が見いだせる。

08. 変化に富む

大名行列の志向性の強い様々な色や形の槍や、火消しの纏など江戸の頭上は多様な物で飾られた。

09. 境界を作る

鳥居やしめ縄、のれんや高さを持った橋、階段など、境界は薄く、暗示的である。

10. 発散させる

二股に割れる形態の樹木や多焦点的に高い建物が建つ寺院伽藍など垂直物は発散的に建てられる。

11. 相似形をつくる

江戸では形が様々な大きさをまとう。北斎が屋根の破風を富士と見立てたように、屋根型は繰り返し用いられるモチーフである。また模造品を作る事も多く見られる。

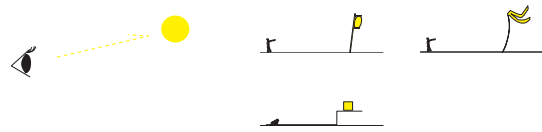
12. 眺める場所をつくる

自然の景観を楽しむために清水の舞台を作ったり二階に縁を張り出した。

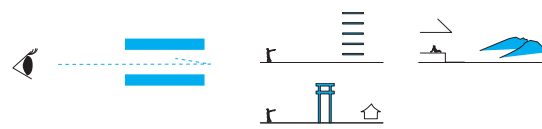
13. 防火を優先させる

都市の高さ規制が厳しい中、火の見櫓が景観を多く占めた。また、鯨や鳳凰の彫刻、奴風などはどれも火除けのまじないの意味がある。

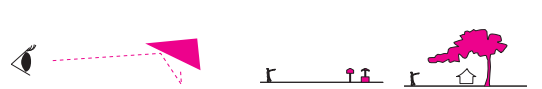
イ. 視線を対象で止める



ロ. 視線を水平に流す



ハ. 視線を下降させる



ニ. 視線を一つの対象に定めない



ホ. その他



図7 作法の視線に関する性質

5. 結

江戸は高さに消極的な町であった。棟の高さが揃っている住宅はみな低い様相を示しており、実用的な火の見櫓が点々と建ち並び、町のシンボルとしての天守閣も存在しなかった。しかしそれは垂直性の発想が貧相だったわけでは無く、上昇的な運動性を持った垂直性を発想をする文化的土壌が存在しなかったからである。その垂直性の運動的側面を、本論ではその地域の社会に通底する人の死生観に求めた。

また、江戸の下降指向の垂直性の表現は多様で豊かな物であったといえる。江戸の高さは身体に対して親密である。高くに有るものでも空よりむしろ地面に接続されている印象を受ける。凧や神棚、樹木の形態といったものが好例であろう。それは神や魂が身近な場所まで降りてくる憑依的な性質がよく表れている、有限性を持った高さと言えよう。